2020年災害対策全国交流集会

2020年11月7日

新潟県災対連事務局長　山田栄作

新潟県災対連の活動報告

はじめに

新型コロナウイルス感染が世界中を危機に陥れている中で、災害対策全国交流集会が開かれ、zoomで新潟から発言できることに感謝しています。

新潟県の災害を振り返ってみました。新潟県は雪国で、毎年毎年雪に苦しめられてきました。加えて、大雨による洪水や土砂崩れ、地滑り、台風や地震に津波と、本当にあらゆる災害を経験しています。加えて昨今は、熱中症、ゲリラ豪雨、突風、たつまき、新型ウイルス、クマ出没にイノシシ被害など、気候変動に左右されることが多発しています。

災害はいつ襲ってくるかわかりません。日本は災害多発国だと改めて自覚させられました。

１．新潟県災対連の発足

2004年10月23日午後5時56分、中越大震災が発生し、甚大な被害となりました。自治体はもちろん、各分野でも全国から救援活動が入りました。共産党新潟県委員会は長岡市に救援本部を設置し、全村避難の山古志村をはじめ、被災地支援活動に奔走しました。その活動を契機に、新潟県災対連が発足しました。

その後も県内では2007年7月16日中越沖地震、2011年3月11日東日本大震災、3月12日新潟・長野県境地震、2019年6月18日山形県沖地震と地震災害が続きました。新潟県災対連は地質研究者を世話人に加え、体制を充実させました。

２．これまでの主な活動

（１）救援活動　（略）

（２）節目ごとのメモリアル集会を開催

2009年　中越地震5年メモリアル集会

2014年　中越地震10年メモリアル集会（山古志村で開催）

2017年　中越沖地震12年、柏崎刈羽原発の再稼働を許さない集会（柏崎市）

2019年　中越地震15年メモリアル集会（山古志村で開催）

　　　〇15年目の山古志の現地視察

　　　〇現地で生きる3人の報告

1.関克史さん「肉牛の未来を拓く。伝統の闘牛も守る」　30代

2.長島忠史さん「民宿を再開して、山古志の今を発信する」　30代

3.齋藤勝さん「山古志主要産業の養鯉業の復興とこれからの展望」

〇緊急報告

4.稲葉久美子村上市議―「6月の山形県沖地震による山北地域の被害　と復興の取り組み」

　　　　　〇学習講演「東日本大震災から8年余～岩手三陸復興・創世の課題～」

講師：齋藤徳美（岩手大学名誉教授）氏

（３）防災の日を中心に、継続的な学習講演会を開催

2016年11月3日　長岡で学習講演会

　　　　　　　「熊本地震であらためて『防災・減災』を考える」

講師：久保田喜裕（新潟大学准教授）

　　　　2017年9月2日新潟市生涯学習センターで学習講演会

　　　　　　　「

　　　　　　　　　　講師：久保田喜裕（新潟大学准教授）

2018年3月24日　新潟市生涯学習センターで学習講演会

　　　　　　　「新潟県の津波について」

講師：阿部邦昭（日本歯科大学名誉教授）

2018年9月2日　新潟市西蒲区巻町で学習講演会

　　　　　　　「地震災害に備えてー西蒲区の地盤と地震―」

　　　　　　　　　　　講師：久保田喜裕（新潟大学准教授）

（４）新潟県への要請行動は毎年取り組む

（県民大運動実行委員会の一員として、毎年取り組む）

　　　　2019年11月22日の新潟県要請行動では、

・台風19号が襲来したことと、11月9日に実施された新潟県原発避難実動訓練のために、災害関係と原発関係は当初の7日を延期しての実施となった。

・原発問題と災害問題が一緒になり、関係参加者・県担当者も多く出席しての交渉となった。

３．2020年、今後の活動

①2020年の学習講演会は「河川問題」を取り上げる予定であったが、新型ウイルス　の影響で中止に。

②県財政は危機状況といわれている。「新潟県行財政改革行動計画」が策定され、政策実行されているが、県立病院の「統廃合」だったり、各種施設の使用料・利用料負担が課せられ県民負担が増えている。こうした中で、災害対応が後手にならないように注視していく。

③県民大運動で9分野の要請行動が11月11日に計画されており、災害関係分野での県要請行動を行う。

④豪雪地帯への支援策を充実強化する活動

近年、温暖化等の影響で異常な小雪が続いています。しかし、豪雪地帯では毎冬雪への備えは欠かせません。特に高齢化・過疎化が進み、住宅屋根や玄関前の除雪が自力では不可能になっており、生存権に関わってきています。地域住民の暮らし・生存権を保障するために、除雪要員を安定的に確保する制度の創設は待ったなしです。

「５６豪雪」の際の原・国土庁長官の「豪雪それ自体が災害である」の立場から、豪雪地帯への支援策を充実強化する活動が求められています。

＊「豪雪を超えて生きる」（十日町・津南地域自治研究所）をお読みください。

（発表原稿　1,921文字）

　添付資料

2020年災害対策全国交流集会

2020年11月7日

新潟県災対連

新潟県の災害の歴史

1. 水とのたたかい

　新潟県を流れる大河、信濃川。歴史に現れてくるのは、

＊1716年享保年間の頃、寺泊の住人が大河津分水工事を幕府に請願。

＊1842年、幕府は分水計画の調査を実施。

1868年（明治元年）大水害発生。

＊1869年、大河津分水工事が決定し、翌年起工式、開削工事を開始。

1896年（明治29年）「横田切れ」の大水害。流出家屋2500戸。

＊1909年、大河津分水第2期工事起工式。

1917年（大正6年）「曽川切れ」の大洪水。死者76名、流出家屋19戸

＊1922年（大正11年）大河津分水路通水。以後も様々な改修工事等が重ねられる。

1998年（平成10年）8月梅雨前線により大雨被害。

半壊家屋3戸、床上浸水1422　戸、床下浸水8842戸。

9月台風により、床上浸水3戸、床下浸水183戸。

2004年（平成16年）7月13日豪雨。[五十嵐川](https://www.weblio.jp/content/%E4%BA%94%E5%8D%81%E5%B5%90%E5%B7%9D)と[刈谷田川](https://www.weblio.jp/content/%E5%88%88%E8%B0%B7%E7%94%B0%E5%B7%9D)で破堤。激甚災害指定。

死者16名、全壊家屋70棟、半壊家屋5,354棟、一部損壊94棟、

床上浸水2,149棟、床下浸水6,208棟。非住家被害6,980棟。

＊2015年大河津分水路改修工事に着手。2032年完成予定。

2019年[10月12日、](https://www.weblio.jp/content/%E4%BB%A4%E5%92%8C%E5%85%83%E5%B9%B4%E6%9D%B1%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%8F%B0%E9%A2%A8)台風19号で、信濃川が増水。[津南町](https://www.weblio.jp/content/%E6%B4%A5%E5%8D%97%E7%94%BA)、[小千谷市](https://www.weblio.jp/content/%E5%B0%8F%E5%8D%83%E8%B0%B7%E5%B8%82)で信濃川の氾濫により浸水被害が発生。[長岡市](https://www.weblio.jp/content/%E9%95%B7%E5%B2%A1%E5%B8%82)で浄土川が氾濫し今井地区で浸水被害。

[この時、](https://www.weblio.jp/content/%E7%87%95%E5%B8%82)[大河津分水路](https://www.weblio.jp/content/%E5%A4%A7%E6%B2%B3%E6%B4%A5%E5%88%86%E6%B0%B4%E8%B7%AF)では過去最高水位17.06 mを記録し、信濃川は決壊一歩手前でした。大河津分水の役割が改めて認識されました。

1. 雪とのたたかい

　新潟県と言えば「雪」。それも「豪雪」です。上越市高田の「雁木（がんぎ）」に象徴されるように、人々は雪国生活を知恵を生かして暮らしました。しかし、雪の威力はすごいです。

1963年（昭和38年）「38豪雪」。死者228名、行方不明者3名、負傷者356名、住家全壊753棟、半壊982棟、床上浸水640棟、床下浸水6,338棟など

この年、福井213cm、富山186cm、金沢181cm、富山県高岡市225cm、　長岡市318cmを観測。鉄道はストップ、道路も除雪が追いつかず、孤立する集落が多数。雪の重みによる住家や施設の倒壊も相次ぎました。

九州でも断続的に雪が降り、日田（大分県日田市）で39cm、阿久根（鹿児島県阿久根市）で38cmなど平野部でも積雪が30cmに達し、山間部では100cmを超え、北陸や中国地方を中心に雪崩や融雪による洪水が発生した。

＊私は小学校5年でしたが、電柱の高さにまで雪が積もり、電線をまたいで近所と行き来した記憶があります。行政は自衛隊に除雪を要請し、ブルドーザーによる道路除雪が行われました。以後、長岡は冬期間の機械除雪が行われるようになりました。

1976年（昭和52豪雪）死者101名、負傷者834名、住家全壊56棟、半壊　83　棟、床上浸水177棟、床下浸水1,367棟。２月に鹿児島20cm、八丈島2cmの積雪を観測。

1980年（昭和56年）「56豪雪」。死者133名、行方不明者19名、負傷者　2,158名、住家全壊165棟、半壊301棟、床上浸水732棟、床下浸水7,365棟。

1983年（昭和59豪雪）死者131名、負傷者1,366名、住家全壊61棟、半壊128棟、床上浸水70棟、床下浸水852棟。

2006年（平成18年）「豪雪」。死者152名、負傷者2,145名、住家全壊18棟、

半壊28棟、一部損壊4,667棟、床上浸水12棟、床下浸水101棟。

＊新潟県津南町で416cmの積雪を観測。観測339地点のうち23地点で、これまでの積雪の最大記録を更新。12月の最大記録を106地点で、1月の最大記録を54地点で、2月の最大記録を18地点で、3月の最大記録を4地点で更新しました。

2016年1月24日からの降雪により、26日に北陸自動車道及び関越道の一部区間が通行止めに。自動車は、国道8号線に流れ込み大渋滞発生。

三条から長岡方面8km、長岡から三条方面10kmの大渋滞。渋滞から抜け出るまでに10時間以上、中には24時間近く動けなかった人も発生。

　　　　※本当に、雪の威力はすごいのです。ぜひ、

　「豪雪を超えて生きる」51㌻、52㌻、64㌻を参照ください。

　十日町松之山と津南町、栄村の記録があります。

　「56豪雪」の際、近藤忠考参議員（共産党）が新潟県内を視察し国会で質問。原・国土庁長官が「「豪雪それ自体が災害である」と画期的な答弁。

当時、福島富県議が近藤議員の現地調査に対応したとお聞きしています。

1. 地震とのたたかい

　　新潟県は、度々大きな地震に襲われてきました。

1964年6月16日、新潟地震。M7.5（震度5）。

死者26名、全壊家屋1,960棟、半壊6,640棟、浸水家屋15,297棟。液状　化現象。津波観測。この年、東京オリンピック、新潟国体開催。

2004年（平成16年）10月23日、中越大震災、M6.8（震度７）

この年新潟県内は、水害と、大地震と2度の被災。そして冬には大雪の年となりました。

　　　　　死者68名、負傷者4,805名、全壊3,175棟、半壊13,810棟、

一部損壊104,619棟。火災9件、非住家損壊41,738棟、道路損壊6,064カ

所、がけ崩れ442カ所等。山古志村が全村避難。

上越新幹線は新幹線ではじめて脱線しました。

2007年7月16日中越沖地震。M6.8（震度6強）

死者15名、負傷者2,346名、全壊家屋1,331棟、半壊5,708棟。

液状化現象。局地激甚災害に指定される。

2011年3月11日、東日本大震災の翌日

　　　　3月12日、長野・新潟県境地震…「忘れない3・12」の報告書籍参照

＊[同年7月、新潟・福島豪雨](https://www.weblio.jp/content/%E5%B9%B3%E6%88%9023%E5%B9%B47%E6%9C%88%E6%96%B0%E6%BD%9F%E3%83%BB%E7%A6%8F%E5%B3%B6%E8%B1%AA%E9%9B%A8)により五十嵐川が破堤、[三条市](https://www.weblio.jp/content/%E4%B8%89%E6%9D%A1%E5%B8%82)を中心に被害。

2019年 (令和元年) 6月18日、山形県沖地震。

県北の村上市府屋地区で震度6強。津波観測。新潟県内、重傷4名、軽傷3名、半壊家屋24戸、一部損壊639戸。（山形県は、重傷3名、軽傷25名、半壊11戸、一部損壊979戸）

1. 火とのたたかい

2016年12月22日、糸魚川で大規模火災。

被害家屋147棟（全焼120、半焼5、部分焼22、焼失床面積30,412㎡）

負傷者17名。強風により、鎮圧まで10時間、鎮火まで約30時間を要した。

災害救助法が適用された。県は自然災害に該当するとして、支援を決定。

被災者生活再建支援法適用で全焼世帯に、国300万円、県支援100万円合計400万円。大規模火災への初めての適用事例となりました。

1. その他

・イノシシ被害

・クマ被害

（添付資料　2,698文字）